




愛媛大学が世界自然遺産マラウイ湖の 持続可能な資源管理の構築を目指す 共に「知」を創造する科学技術協力～2019年度の採択結果の発表

途上国と日本の研究機関が共同研究を行うことで、地球規模課題に対応する新しい技術や知識を創り出していく科学技術協力(注)。2019年度は12件の事業の採択が決定され、四国地域では、愛媛大学の事業が新たに採択されました。

愛媛大学は、今回 SATREPS では初採択となるマラウイと共同研究を実施し、世界自然遺産であるマラウイ湖国立公園内の漁村を対象として、人々の生活を支える水産、農業、森林、観光等の産業と、その基盤となる自然環境を統合した、持続可能な資源管理の仕組みづくりを目指します。研究者と地域の人々が協働し、在来知と科学技術を融合させ、途上国の農山漁村に広く適用できる環境保全と持続可能な開発への貢献を目指します。

大学の先生方へのご取材も調整可能です。ぜひ取材をご検討ください。

日本側研究機関	相手国研究機関	事業名	SDGs項目
愛媛大学	マラウイ大学チャンセラー校	世界自然遺産・マラウイ湖国立公園における貴重な自然と調和した持続可能な地域開発モデルの構築 (環境領域)	  

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国際科学技術技術室 (担当: 岸本茜)
 TEL 03-5226-8114, e-mail: Kishimoto.Akane@jica.go.jp

<地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)>とは>

日本と開発途上国の大学・研究機関等が連携し、新たな技術の開発・応用や新しい科学的知見獲得のための共同研究を実施するとともに、開発途上国の大学・研究機関等の研究水準の向上と総合的な対処能力の強化を行うプログラム。JICA、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の連携により実施しています。(<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html>)